

●三位一体後第二主日

泉のほとり

今月の詩編「第二十九編」

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。



神がお住みになるのは

神はイスラエルに証の幕屋を備えてくださいました。神はこの幕屋に臨在され、民の只中に住み、共に歩むことによって、契約を結んだことを明確なものとされたのです。

幕屋はカナンに運ばれ、後の世代が次々に受け継いでいきます。時が過ぎ、ダビデがイスラエルの王として立てられる時代には、幕屋は建設されてからおよそ450年が経ち、非常に老朽化していたのです。ダビデは神のために新しい住まいを建設したいと願い、神はその願いを聞き入れてくださいます。

ソロモンが神殿建設を始めました。7年もの歳月をかけ、豪華な神殿が完成したのです。その時、彼は「天も、天の天もあなたをお入れすることはできません。この宮など、なおさらのことです」と言います。後にステファノも「いと高き方は人の手で作ったものにお住みにはなりません」と語ります。神ご自身も「天はわたしの王座、地はわたしの足台。お前たちはわたしにどんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。これらは全てわたしの手が造ったものではないか」と言われます。

神は全世界、全宇宙までもご支配しておられる神です。多大な労力や資材や時間を費やして造り上げた神殿であっても、そこにおさまるお方ではありません。しかし、本来、人の手で造ったものにお住みにはならない神が、民のために幕屋や神殿を備え、降って来られ、そこに臨在され、ご自分の栄光を表しておられたのです。

ソロモンは「罪ある民がこの場所に向かって祈り求める願いを聞き入れてください。どうかあなたのお住まいである天で耳を傾け、聞き入れ、その罪を赦して

ください」と語っていたのです。彼は神殿を罪あるものたちが神に赦しを願い求め、立ち返る場所と見て、その真実な心を携えたものたちがやって来たとき、天において耳を傾けてくださいと祈り求めていたのです。神は彼の祈りを聞き入れてくださいます。そして神は彼に「あなたが建てた神殿を聖別し、そこにわたしの名をおく。わたしの目と心は、いつもそこにある」と語られるのです。神殿に絶えず目と心を注ぎ、祈り求める声に耳を傾けると約束してくださいました。神はご自分に近づく道、赦しと和解の道を備えておられたのです。

しかし民は、豪華な神殿に固執し、礼拝をささげること自体にとらわれるようになっていきます。その中で神の前に罪と背きをおかしていながらも、真実に近づいて来るものたちがいなかったのです。やがて神は民の罪が極みに達する中、異国の民の手を通して、神殿を崩壊させたのです。

それでも神は御子イエスをイスラエルにお遣いくださいました。神は主イエスに、この地上で人の罪を赦す権威を与えられました。主は福音宣教をされる中、罪を悔い改め、ご自分に立ち返ってくる罪人たちを喜ばれ、赦しを与えておられたのです。神殿としての役割をなしておられました。

今日、幕屋や神殿が与えられていない教会にも、主を通して罪の赦しを受ける道、神と和解し、神に近づいていく道が備えられています。主は、今もなお自らの罪を真実に悔い改め、立ち返ってくるものたちに目を留めてくださいます。その人が祈り求める声に耳を傾けてくださいます。ご自分を探し求めて、近づいてくるものたちを喜び、心を注いでくださるのです。わたしたちは常に真実な心を携え、自らの罪に気付いた時、主の元に立ち返っていきたいと思います。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○コイノニアキャンプの準備会をカナルームで行います。参加者及び関係者の方はご出席ください。

今後の準備会の予定は左記の通りです。

七月一三日(日)、七月二三日(水)。

○本日、吉村和雄名誉牧師は日本基督教団聖書之友教会で奉仕のため不在です。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会は休会です。

《礼拝伝道委員会より》

本日一二時(別途)からホールにて青年会が企画してくださった楽しい交わりの会があります。どなたでもお気軽にご参加いただけるレクリエーション企画です。ぜひ皆さまお誘いあわせの上、ご参加ください。

《教育奉仕委員会より》

諸聖徒記念礼拝の準備に参加しませんか？

- ・作業内容：礼拝堂に諸聖徒のお写真を掲示します。
- ・作業日時：七月一二日(土)午前一〇時から一時間程度。
- ・募集人数：二〜三名。

ご参加いただける方は、担当役員の上原または三原まで。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇二十九篇】賛歌。ダビデの詩。

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。

主の御声は水の上に響く。

栄光の神の雷鳴はとどろく。

主は大水の上にいます。

主の御声は力をもって響く

主の御声は輝きをもって響く。

主の御声は杉の木を砕き

主はレバノンの杉の木を砕き

レバノンを子牛のように

シルヨンを野牛の子のように躍らせる。

〔司・会〕

主の御声は炎を裂いて走らせる。

主の御声は荒れ野をもだえさせ

主はカデシュの荒れ野をもだえさせる。

主の御声は雌鹿をもだえさせ

月満ちぬうちに子を産ませる。

神殿のものみなは唱える「栄光あれ」と。

主は洪水の上に御座をおく。

とこしえの王として、主は御座をおく。

〔司・会〕

どうか主が民に力をお与えになるように。

主が民を祝福して平和をお与えになるように。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「天使のような顔つき」

聖書 使徒6章8〜15節

説教者 宮間 彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「主イエスを探し求めて」

聖書 使徒8章26〜35節

説教者 宮間 彰広兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 76番 339番

説教 「御言葉を行う人にならなさい」

聖書 ヤコブ1章22〜27節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 69番 278番
説教 「話すのに遅く、怒るのに遅く」
聖書 ヤコブ1章16～21節(新約P.421)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」J.バッハ

○讃美歌69番

1. さかえに輝く み殿のうちに
あまたの御使い たがいに呼べり
「こよなく畏し 父なる神よ
天にも地にも みいつは満てり」
2. 天なる使の たえなる歌に
ものみな応えて 高らにうたう
「こよなく貴し 子なる主イエスよ
天にも地にも みいつはみてり」
3. 天地こぞりて たたうる歌に
調べを合せて 我らもうたわん
「こよなく清けし みたまの神よ
天にも地にも みいつはみてり」

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「主の眼差しは」 チャールズ H. ガブリエル作曲
力強い暗い影に覆われる時
主を見上げる
主はわがすべて変わらぬとも
小さい雀にさえ 目を留められる
喜び歌おう 主の眼差し
私の上にもいつもあるから
主の御言葉に養われて
我らの心 平安満ちる
主の導きに 恐れ消え去る
小さい雀にさえ 目を留められる
喜び歌おう 主の眼差し
私の上にもいつもあるから

○讃美歌278番

1. わが主の御姿 心にえがきて
知りえる真理を 僅にさとりぬ
2. 人たり神たる 奇しきわが主は
みむねに背ける 愚かを諭せり
3. この世の知識は 天より洩れくる
光をうつせど 明るさ足わず
4. 知りえぬ真理も 御旨とかしこみ
洩れくる光を 明かに仰ぎみん
5. 知識も進みて 敬虔ふかかれ
こころの緒琴の 調べも高かれ

アーメン

聖餐曲「主と主の言葉に頼るは楽し」R.H.ハーン

後奏曲「教会ソナタへ長調」W.A.モーツァルト